

資料

我が国の母性看護学実習における 看護学生のストレスに関する文献検討

林陽子¹⁾，吉岡詠美¹⁾，金子さゆり¹⁾

¹⁾ 長野県看護大学

長野県看護大学紀要

第23巻別刷

2021年3月

我が国の母性看護学実習における 看護学生のストレスに関する文献検討

林陽子¹⁾, 吉岡詠美¹⁾, 金子さゆり¹⁾

【要旨】本研究は、看護領域別実習の一つである母性看護学実習における看護学生のストレスについて文献検討を行い、効果的な実習指導への示唆を得ることを目的とする。医学中央雑誌Web版を用いて、看護学生のストレス状況、ストレス対処能力、対処行動および学習環境の観点から検討した。その結果、母性看護学実習特有の看護学生のストレス状況として、母性看護の難しさ、看護過程への不安、母親・新生児の看護、男子学生特有の困難感、出産・育児経験の影響、母性看護への興味関心の低さなどが明らかになった。実習中のストレス対処行動は、問題中心型、情動中心型の対処行動をとる傾向が示され、問題中心型の適切なストレス対処の選択ができることによって、ストレス対処能力が向上する可能性がある。教員や指導者は、学生個人の特性やレディネスを把握するだけでなく、実習前に母性看護学に対する捉え方を理解した上で母性看護学の特徴をイメージできるような演習をすること、実習中は知識と経験を結びつけられるような形でのリフレクションを行うことが望まれる。

【キーワード】看護学生、母性看護学実習、ストレス状況、ストレス対処能力、ストレス対処行動

はじめに

近年、我が国における新人看護師の離職の背景には、リアリティーショックやバーンアウト、心と体の健康問題などがある(内野ら, 2015)。新人看護師のバーンアウトの防止や、メンタルヘルスを良好に保つためには、ストレス対処能力を高め、効果的なストレス対処行動をとれることが重要となる。

看護学生は、看護師になるための学習過程で臨地実習を経験するが、この臨地実習がストレスとなっている(重岡ら, 2016)。看護基礎教育における臨地実習の意義は、「知る」「わかる」の段階から「使う」「実践できる」の段階に到達させるために不可欠な過程であり(文部科学省, 2017)、それと同時に強いス

トレス環境への適応力を養う場でもある(服部ら, 2016)。そこで、看護学生のうちに臨地実習の場で適切なストレス対処方法を身につけることは、セルフマネジメント能力が向上し、看護職に就いてからのリアリティーショック、バーンアウトの軽減につながると考える。臨地実習に携わる教員は、看護学生のストレス反応にいち早く気づき、その原因を明確にし、コントロールするとともに、臨地実習というストレスフルな環境に適応できるように支援・指導することが求められる(服部ら, 2016)。

臨地実習の中でも母性看護学実習は、出産率の低下などの背景から実習施設の確保が困難な状況にあり、学生の実習で経験できる内容にばらつきが生じること(日本看護系大学協議会, 2018)が問題視されてい

¹⁾長野県看護大学
2020年10月2日受付
2021年3月25日受理

る。母性看護学実習は、母と子の二人を同時に受け持つこと（浅野ら, 2011；秦ら, 2014）、妊娠期、分娩期、産褥期など短時間で受け持ち対象者の状況が変化するという特性がある（工藤ら, 2018）。そのため、母性看護学実習を受ける看護学生は、他領域の臨地実習の経験とは異なるストレスの特徴があると考えられる。

そこで、本研究は看護領域別実習の一つである母性看護学実習における看護学生のストレス状況、ストレス対処能力、ストレス対処行動、学習環境に着目して文献検討を行い、得られた特徴から、効果的なストレス対処に繋がる実習指導について検討することを目的とした。

研究方法

1. 用語の定義

- 1) ストレス状況：看護学生が実習においてストレスの状態を引き起こす要因となりうる物理的、身体的、心理・社会的な負担となる事項のこと。
- 2) ストレス対処能力：ストレスフルな出来事や状況に晒されながらも、それに対し、その人が持つ資源を上手に動員し対処することによって健康に生きる力に繋がるもの（山崎, 2017）のこと。本研究では、これらを示す概念として、SOC、レジリエンス、自己効力感をストレス対処能力とする。
- 3) ストレス対処行動：ストレス要因を解決するために、あるいはストレス反応を軽減させるために行われる、個人の認知的および行動上の努力とする（東京大学保健センター, 2020）。
- 4) 母性看護学実習：周産期の母子の看護を通し、対象者およびその家族に対する母性看護の基礎的な実践能力を臨地の場で養うことを目的とした科目。

2. 文献抽出方法

文献検索は、医学中央雑誌Web版を用いた。キーワードを「母性看護学実習」and「看護学生」and「ストレス」として検索したところ、抽出文献数が12件と少なかった。対象文献を増やすため、キーワードを「母性看護学実習」and「看護学生」として再検索した。その際、検索期間は、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正年（新カリキュラム開始年）である2009年～

2020年とし、「原著論文」「抄録あり」と「会議録を除く」に限定した。抽出された文献は、まず、研究対象者が看護学生ではないものを削除した。次に、テーマと抄録からストレスに関連した文献を抽出した。

3. 分析方法

抽出された文献は、研究目的に従いストレス状況、ストレス対処能力、ストレス対処行動、学習環境の4つの観点から整理した。

ストレス状況は、態度や感情に関する記述内容を各文献から抽出してコード化し、意味内容の類似性、相違性に基づき分類し、小カテゴリー、中カテゴリー、大カテゴリーと抽象度を高めた。その際、研究者間で検討を行い、内容妥当性の確保に努めた。ストレス対処能力およびストレス対処行動について、該当する文献が少なかったため、研究内容を整理した。加えて、看護学生のストレス軽減につながった母性看護学に関する学習環境要因を、講義、演習、実習の観点から整理した。

4. 倫理的配慮

文献の取り扱いには著作権を侵害しないよう配慮し、原論文に忠実であることに努めて引用した。

結果

文献検索は、2020年9月末日において医学中央雑誌Web版を用い、キーワードを「母性看護学実習」and「看護学生」で検索し646件、検索期間（2009年～2020年）、原著論文、抄録ありに限定し、会議録を除いて検索したところ、211件の文献が抽出された。そのうち、対象が看護学生ではないものを除外し、145件の文献を抽出した。そこから、ストレスに関連する記述がある文献を抽出し、42件を分析の対象とした（2020年9月末日時点）。分析対象とした文献を表1に示す。

1. 母性看護学実習における看護学生のストレス状況（表2～5）

母性看護学実習における看護学生のストレス状況は、母性看護の知識、母性看護の技術、母性看護実習の受け止め、母性看護実習の環境の4つが導き出された。以下、それぞれについてカテゴリーごとに説明する。本文中のカテゴリーは、【】大カテゴリー、□中カテゴリー、◇小カテゴリーで示した。

表 1. 本研究の分析対象とした文献の概要(1)

著者 (発行年)	テーマ	目的	対象	調査方法
1 高橋 (2009)	母性看護学実習における男子学生の不安と変容	母性看護学実習における男子学生の不安と変容を明らかにすること	看護学校 3年生57名	自記式質問紙調査 実習前,実習後
2 天野ら (2010)	看護学生が褥婦への電話訪問を通して学習したこと	学生が実習で受け持った褥婦に対し産後1週間目に自宅に電話訪問することによる学びを明らかにすること	看護学校 3年生13名	半構成的面接 実習後
3 伊藤 (2010)	分娩期実習における看護学生の体験と学び	分娩期実習での看護学生の体験と学びの内容を分析すること	短期大学 学生18名	課題レポート 実習後
4 伊藤 (2010)	母性看護学実習前後の「実習」に対するイメージの変化	学生の実習の体験内容を実習に対するイメージの変化に着目し明らかにする	短期大学 学生48名	自記式質問紙調査 実習後
5 尾崎ら (2010)	母性看護学実習で男子学生が感じる困難	男子学生が母性看護学実習で感じる困難について明らかにする	看護学校 男子学生 10名	自記式質問紙調査 インタビュー 実習前 実習後
6 川由ら (2010)	母性看護学実習前後の看護学生の苦手意識の変化	母性看護学実習に患者教育プログラムを取り入れ,実習前後における学生の苦手意識の変化とその要因を分析すること	看護学校 進学コース 3年生13名	自記式質問紙調査 レポート 実習前 実習後
7 都竹ら (2010)	看護学生の母性看護学実習に対する意識調査	母性看護学実習前の学生の思いや学びたいことから,母性意識を高める実習での指導的関わりを検討する	短期大学 学生74名	自記式質問紙調査 実習前
8 野田ら (2010)	看護学生の母性看護学実習に対する意識調査	看護学生の母性看護学実習で経験した感情が,将来の進路に与える影響の有無を明らかにする	短期大学 学生74名	自記式質問紙調査 実習後
9 萩山ら (2010)	母性看護学実習で分娩に立ち会った男子看護学生の認知	分娩に立ち会った男子看護学生数を充実させて,その認知を知ること	看護学校 男子学生 26名	実習後レポート
10 浅野ら (2011)	母性看護学実習で学生が興味や達成感を感じた出来事や場面の実態	学生は実習で,いつ,どのようなきっかけで,母性看護の興味や達成感を感じたか明らかにし,今後の実習指導の示唆を得ること	看護学校 3年生9名	インタビュー 実習後
11 北林ら (2011)	母性看護学実習における学びの評価とそれに関連する因子	母性看護学実習における実習形態変更後の実習の効果・学びの状態を評価し,実習方法を再考すること	短期大学 学生100名	自記式質問紙調査 実習後
12 野田ら (2011)	看護学生の母性看護学実習に対する意識調査	看護学生が母性看護学実習で感じたことから,学生と教員の思い方のズレを考察し,今後の実習指導の改善に向けての示唆を得る	短期大学 学生74名	自記式質問紙調査 実習後
13 岩谷 (2012)	看護学生の母性看護実践に対する自己効力感 母性看護学実習前後の比較	看護学生の母性看護学実習前後において,母性看護実践における自己効力感を評価指標として,属性,教育課程,実習時期等で比較検討する	看護大学 3校 看護学校 4校	自記式質問紙調査 実習前,実習後
14 太田ら (2013)	母性看護学における臨地実習前学内演習の効果について	学内演習が母性看護学実習にどのような影響を与えたかについて検討するため	短期大学 3年生138名	自記式質問紙調査 実習後
15 勝田ら (2013)	模擬患者を対象にした母性看護技術演習の学習効果	臨地実習前に模擬患者を対象にした演習を実施することで,実際の臨地実習における学習効果を明らかにする	大学 3年生50名	自己評価 演習後 実習後
16 橋本 (2013)	母性看護学実習における実習体験の達成度調査	実習直前の学生の目標を掲げてもらい,実習終了時学生個人の目標に対する自己解釈による達成度を明らかにする	短期大学 学生47名	アンケート・口頭 実習前 実習後
17 山口 (2013)	母性看護学に対する苦手意識の形成要因と軽減要因	母性看護学に対する苦手意識の形成要因と軽減要因を調査し明らかにする	看護学校 学生373名	自記式質問紙調査 実習後
18 中島ら (2014)	母性看護学実習における学生のストレスと対処行動から捉えた実習指導の課題	母性看護学実習の学生のストレスと対処行動を明らかにする	大学 学生49名	自記式質問紙調査 実習後
19 賛ら (2014)	母性看護学実習に対する女子学生の実習前のイメージ,実習中感じたこと,実習後の思い	母性看護学実習に対する女子学生の実習前のイメージ,実習中感じたこと,実習後の思いを明らかにする	大学 女子学生 14名	半構造化面接 実習後
20 賛ら (2014)	母性看護学実習における男子学生の思い	母性看護学実習に対する男子学生の思いを明らかにする	大学 男子学生9名	半構造化面接 実習後
21 秦ら (2014)	母性看護学への苦手意識 母性看護学実習による減少効果	看護学生の母性看護学への苦手意識の変化を母性看護学実習前後で調査を行い比較検討すること	大学 学生63人	自記式質問紙調査 実習前 終了後

表 1. 本研究の分析対象とした文献の概要(2)

著者 (発行年)	テーマ	目的	対象	調査方法
22 谷野ら (2014)	学生が持つ母性看護に対するイメージの変化 母性看護学の講義と実習を通して	看護学生の母性看護のイメージが、母性看護の学習が進む中でどのように変化していくのかを明らかにする	大学 2年生58名 4年生64名	自記式質問紙調査 講義後 実習後
23 二川ら (2015)	男子学生の視座から捉えた母性看護学実習における学習	男子学生の母性看護学実習に対する準備状態と実習課程を明らかにすること	大学 男子学生5名	半構造化面接 実習前・実習後
24 近藤ら (2015)	看護学生の母性意識 母性看護学実習の前と後の調査からみえてくるもの	母性意識を母性看護学実習前後に調査し、実習が学生の母性意識にどのように影響しているのかを明らかにする	短期大学 学生65名	自記式質問紙調査 実習後
25 北出ら (2015)	母性看護学実習におけるドライテクニクの学習経験より検討した実習指導	母性看護学実習におけるドライテクニクの学習経験を明らかにし、新生児看護の効果的な実習指導について検討する	看護学校 3年生42名	半構成的面接 実習後
26 秦ら (2015)	能動的学修を授業に取り入れた効果 母性看護への苦手意識の軽減	能動的学習を授業に取り入れた授業の改善点の効果を明らかにする	大学 3年生137名	自記式質問紙 実習前 実習後
27 藤原ら (2017)	母性看護学実習における教育方法の一考察	母性看護学実習での学びを明らかにし、実習教育方法の示唆を得ること	大学 学生99名	自記式質問紙調査 実習後
28 瀬瀬ら (2017)	男子学生の母性看護学実習開始時における心理状態に関する研究	母性看護学実習に対する男子学生の思いを明らかにする	大学 4年男子学生 13名	半構成的面接 実習後
29 都竹ら (2017)	看護学生の母性看護学実習に対する意識調査	実習前の実習に対するイメージと実施したい経験希望との関係を明らかにする	短期大学 3年生66名	自記式質問紙調査 実習後
30 前山ら (2017)	知識・技術・態度を総合的にアセスメントする評価方法の妥当性 母性看護学実習前と実習後のSCCとの関連	知識・技術・態度を総合的にアセスメントする評価方法導入の妥当性をSOCとの関連で明らかにし、看護教育への示唆を得ること	短期大学 3年生79名	自記式質問紙調査 実習前、実習後
31 和田ら (2017)	母性看護学実習における看護学生の自己評価に影響する実習体験に関する質的研究	母性看護学実習における看護学生の自己評価に影響する実習体験について質的に検討すること	大学 3年女子学生 5名	半構造化面接 実習後
32 大野 (2018)	男子学生が母性看護学実習前から実習終了までに抱く困難感	母性看護学実習前から実習終了までに男子学生が抱く学習への困難感を経時的な視点で明らかにする	大学 4年男子学生 9名	半構成的面接 実習後
33 加藤ら (2018)	母性看護学実習につなげる講義・演習の工夫	講義・演習での学習が実習につなげられたかを明らかにし、今後の学習支援を検討する	看護学校 3年生95名	自記式質問紙調査 実習後
34 贅 (2018)	母性看護学実習において学生が抱く実習前の不安感、実習中の困難感、実習後の成長感と事前学習課題の理解度及び有効性から考察した効果的な学習支援	母性看護学実習において学生が抱く、実習前の不安感、実習中の困難感、実習後の成長感を男女別に検討し、事前学習課題の理解度及び有効性を照合して、今後の実習や講義・演習のあり方に示唆を得る	大学 3年女子学生 92名 男子学生 24名	自記式質問紙調査 実習前 実習後
35 伊東ら (2018)	母性看護学実習における学びに関する研究	学生たちは分娩見学で何を感じ、どのような支援を求めているのか明らかにする	大学 3年生7名	インタビュー 実習後
36 佐藤ら (2018)	母性看護学実習での男子学生のモチベーションに影響する要因	母性看護学実習に対する男子学生のモチベーションに影響を与える要因を明らかにする	大学 男子学生 15名	インタビュー 実習後
37 志村 (2018)	母性看護学に関する興味関心の変容－実習前後の調査	母性看護学に対する実習前後の興味の有無とその理由の内容を明らかにする	大学 学生74名	自記式質問紙調査 講義後 実習後
38 北出ら (2019)	母性看護学実習における出産育児経験のある看護学生の学びの構造と学習支援	出産育児経験を持つ看護学生の母性看護学実習における学びの構造を明らかにし、学習支援の示唆を得る	看護学校 出産育児経験者15名	半構成的面接 実習後
39 工藤ら (2019)	母性看護学実習に向けた学習支援に対する学生の認識	母性看護学実習に向けた学習支援に対する学生の認識を明らかにする	大学 学生57名	自記式質問紙調査 実習後
40 谷川ら (2019)	母性看護学実習における学生自身の意欲につながる関わりについて	学生が具体的にどのような場面で意欲が向上し、戸惑いを感じたのか明らかにし、今後の学習支援について検討する	看護学校 3年生95名	自記式質問紙調査 実習後
41 西川ら (2019)	母性看護学実習に有効な学内演習の検討	実習前の学内演習の現状と、母性看護学実習で戸惑った看護技術を明らかにし、臨地実習に役立つ教授法を考察すること	大学 3年生88名 4年生86名	自記式質問紙調査 実習後
42 原ら (2019)	男子看護学生の母性看護学実習に対する思いと学びの調査	男子看護学生の母性看護学実習に対する思いと学びを明らかにし、今後の母性看護学実習の教育的関わりを検討すること	短期大学 3年男子学生 7名	半構成的面接 実習後

1) 母性看護の知識に関連したストレス状況 (表2)

母性看護の知識に関連したストレス状況は、2つの大カテゴリー【母性看護の難しさ】【看護過程への不安】が抽出された。【母性看護の難しさ】は中カテゴリー- [学習不足] [母性看護の特殊性] [母子同時看護] から導き出された。[学習不足] は〈知識不足〉と〈覚えることが多い〉からなり、[母性看護の特殊性] は〈健康な人が対象〉〈特殊な看護領域〉からなり、[母

子同時看護] は〈母子同時受け持ち〉から構成された。【看護過程への不安】は中カテゴリー [看護展開] [看護記録] から導き出され、[看護展開] は〈情報収集の難しさ〉〈アセスメントへの苦慮〉〈看護展開に対する不安〉〈ウェルネスの視点への不安〉から構成された。[看護記録] は〈記録全般への思い〉〈記録への困難感〉から構成された。

表2. 母性看護の知識に関連したストレス状況

大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー	コード(文献番号)
母性看護の難しさ	学習不足	知識不足	知識不足な思い(17), 知識が不十分(21)(34)(41), 自分の知識不(11), 分析するためには自分の知識は不十分(14), 準備不足(12), 学習内容不足(39) 事前課題の活用ができなかった(16), 受け持ちケースの看護実践に関連した知識不足に対する焦り(18), 授業ではイメージできなく覚えることが多くて苦手意識がある(33)
		覚えることが多い	覚える内容が多い(17), 覚えることの多さ(6)(21), 覚えなくてはならない(21)
	母性看護の特殊性	健康な人が対象	学生と同年代で健康レベルが高い(19), 問題が見つからない(27), 健康な人を受け持つため異質な感じがする(28), 健康な女性や新生児に対するケアが中心(34)
		特殊な看護領域	母性看護学および技術に対する不安(7)(29), 母性看護学実習が不安である(14), 母性は全く違う領域と思い込んでいた(16)
母子同時看護	母子同時受け持ち	お母さんと赤ちゃんの両方をみるということ(21), 母子を一体として看護することの難しさ(23), 母児共に正常を維持しサポートしていくことの難しさ(23), 2名を同時に見るという不安(40), 母子の時間を確保すること難しい(31), 他領域と違う(34)	
看護過程への不安	看護展開	情報収集の難しさ	情報収集の難しさ(19), コミュニケーションでの情報収集の難しさ(41)
		アセスメントへの苦慮	アセスメントができなかった(16), アセスメント能力不足に対する焦り(18), 順調な経過とアセスメントすることの難しさ(23), アセスメントへの苦慮(34), 褥婦と新生児の2人分のアセスメント(26)
		看護展開に対する不安	母性看護の看護展開は特徴があるのでうまくできるか不安である(28), 実習での看護展開についての不安(32), 正常なことがほとんどなので看護過程が難しい(21), 正常な人をアセスメントするのが初めてだったから戸惑った(14), 対象への看護が導き出せないことによる実習の不全感(32), 良好な経過を辿るのが普通ということを前提に考えるのが難しい(16)
		ウェルネスの視点への不安	ウェルネス思考の看護展開に関連した理解力不足に対する焦り(18), ウェルネス型の看護過程に対する不安(28), 書き方や視点の予測が難しい(40)
	看護記録	記録全般への思い	実習記録をストレスに感じている(11)(34), 記録を書くことができるか不安(7)(29)
		記録への困難感	記録物の難しさと多さ(17), 直接観察できない内容を記録する際の困難感(42), 記録に費やす時間の多さにより生じる疲労・睡眠不足(18)

2) 母性看護の技術に関連したストレス状況 (表3)

母性看護の技術に関連したストレス状況は、2つの大カテゴリー【母親の看護】【新生児の看護】が抽出された。【母親の看護】は中カテゴリー [母親への看護技術] [母親との関わり] から導き出され、[母親への看護技術] は〈技術〉〈プライベートな部分への観察〉〈直接ケアすること〉〈メンタルケア〉〈手技の不慣れ〉から構成された。[母親との関わり] は〈コミュニケーション〉〈母親への関わり〉〈母親への申し訳なさ〉〈患者からの拒否〉〈セルフケア能力が高い〉から構成さ

れた。【新生児の看護】は中カテゴリー [新生児の看護技術] [新生児との関わり] から導き出され、[新生児の看護技術] は〈新生児のバイタルサイン測定〉〈育児技術〉からなり、[新生児との関わり] は〈新生児への関わりの経験不足〉〈新生児との関わりへの不安〉から構成された。

表 3. 母性看護の技術に関連したストレス状況

大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー	コード(文献番号)
母親の看護	母親への看護技術	技術	褥婦への電話訪問の難しさ(2), 技術の難しさ(17), 支援の難しさ(23), 退行性変化が, 実際の褥婦さんではわかるか不安(14), 悪露の状態の観察に不安がある(14), 技術が実施できるか不安(29)
		プライベートな部分への観察	プライベートな部分への援助が多い(21), プライバシーへの配慮が困難(6), 性器への観察(5)(28), 乳房の観察など男子学生が見ていると嫌な気持ちにならないか(42)
		直接ケアすること	対象者に接触することへの不安(5), 緊張が患者さんに伝わった(6), 女性の羞恥心のある場所に触れるのはやりづらい(42)
		メンタルケア	言葉がけによるメンタルケアの困難さ(31), 褥婦が不安定なとき(40)
	母親との関わり	手技の不慣れ	初めての経験で緊張して時間がかかった(41),
		コミュニケーション	コミュニケーションが難しい(6)(15), コミュニケーションが不安(7) (29), 受け持ちケースとのコミュニケーション能力不足に対する不安・緊張(18), コミュニケーションへの困難感(19), 緊張してうまく話せなかった(41)
		母親への関わり	母親との関わりの難しさ(19) 妊産褥婦との関係(11) 褥婦への接し方がわからない(28)(40)
		母親への申し訳なさ	遠慮してしまう(5) 受け持ち褥婦に迷惑をかけたくない(28) 対象に申し訳ない(29) 学習不足による後ろめたさ(36)
		患者からの拒否	援助の拒否(9), 見学を断られた(36), 妊産褥婦に受け入れてもらえない可能性への不安(42)
		セルフケア能力が高い	自分たちでできることが何もない(27), 自律性の高い褥婦への支援の難しさ(38)
新生児の看護	新生児の看護技術	新生児のバイタルサイン測定	新生児は心拍数が成人よりも速く、数えにくい(14), 正常値だけでなく, 全身状態を観察して異常の有無を判断するのが難しい (14)
		育児技術	おむつ交換などの技術になれていない(5), ドライテクニックは難易度が高い技術(25)
	新生児との関わり	新生児との関わり の経験不足	赤ちゃんに触れる機会がなかった(21), 赤ちゃんの世話体験がないと関わりに負担感・拘束感がある(24)
		新生児との関わり への不安	赤ちゃんを抱けるか・沐浴できるか不安(21), 新生児との関わりに対する不安(34), 新生児のあやし方, 沐浴の時(40)

3) 母性看護学実習の受け止めに関連したストレス状況 (表4)

母性看護学実習の受け止めに関連したストレス状況は、3つの大カテゴリー【男子学生特有の困難感】【出産・育児経験の影響】【母性看護への興味関心の低さ】が抽出された。【男子学生特有の困難感】は、中カテゴリー [男性であること] [同世代の異性の看護] [夫への関わり] から抽出され、[男性であること] は〈男子学生が実習すること〉〈男子学生という理由で断られる〉〈ケアへの遠慮〉〈男性がいない領域〉から、[同世代の異性への看護] は、〈女性の体がイメージできない〉〈観察の難しさ〉〈男子だから制約がある〉から、[夫への関わり] は〈夫への気兼ね〉から構成された。【出産・育児経験の影響】は、中カテゴリー [出産育児経験があること] から抽出され、〈自己経験による困難感〉〈母親としての自己否定感の強さ〉〈自己経験との比較〉で構成された。【母性看護への興味関心の低さ】は、中カテゴリー [母性看護学への関心が低い] [将来につながらない] から導き出された。[母性看護学への関心

が低い] は〈苦手意識〉〈おもしろくない〉から、[将来につながらない] は〈将来の仕事に関係がない領域〉〈将来に関係ないという想い〉から構成された。

表4. 母性看護学実習の受け止めに関連したストレス状況

大カテゴリ	中カテゴリ	小カテゴリ	コード(文献番号)	
男子学生特有の困難感	男性であること	男子学生が実習すること	男性であることで患者さんから嫌がられてしまいそう(21), 自分が男性であること(6) 異性ということで観察などをさせてもらうことが難しい(5), 男性であることによる不安(7), 性差による不安(20)(22), 男性という立場上母性実習自体迷惑がかかるのではないかと思う(28), 男子学生が実習するという気兼ね(36), 若い女性ばかりだから自分の居場所がない(28), 男性であることの疎外感(42), 男性のいる場所じゃない(42)	
		男子学生という理由で断られる	男子学生だからという理由で断られる(1)(5), 受け入れの拒否(12)(22), 母親の受け入れが難しいのではないかという危惧感(19), 男性であることを理由に拒否されるのではないかという不安(32), 1人も受け持ちを持つことができなかった(36)	
		ケアへの遠慮	遠慮してしまう(5), 男子学生であるための気遣いが必要(17), 男子という壁を乗り越えられない(8), 男子学生の看護援助に伴う遠慮・疎外感(18)	
		男性がいない領域	母性を異性の領域と捉え, 近寄りたいたいという意識を持つ(37), 病棟が特殊な環境で, 男性は蚊帳の外, 別次元のような感じ(42), 男性看護師がいないので心細い(42), 男性特有の思いを共有できない(42)	
	同世代の異性への看護	女性の体がイメージできない	性器がどのような状況なのかイメージできない(5), 対象が女性であることでイメージがつかない(32)	
		観察の難しさ	遠慮して観察できない(5), 会陰をみるので観察できない(5), 恥ずかしい(5), 恐る恐る触れて逆に不快感を与えるのではないか(42), 見ちゃいけないと思って, 自分の立ち位置に困った(42)	
		男子だから制約がある	男性であるがゆえ実践できることが限られる(32), 見ないと情報収集できない部分を見たかった(42)	
	夫への関わり	夫への気兼ね	夫の立場から嫌な思いをする(5), 夫の気持ちを考えると申し訳ない(42), 夫が入れない処置に男子学生が入ることに対する夫への気兼ね(36)	
	出産・育児経験の影響	出産・育児経験があること	自己経験による困難感	自己の体験が影響する実習への不安(38), 出産育児経験者というハードル(38)
			母親としての自己否定感の強さ	母性が欠けているから行きたくない(38), 思い出したくないから行きたくない(38), 母親としての自己否認観(38)
自己経験との比較			褥婦への羨ましさ(38), 受け持ち褥婦との比較による劣等意識(38), 自己の育児への自信喪失(38), 払拭できない自分の育児への罪悪感(38)	
母性看護への興味関心の低さ	母性看護学への関心が低い	苦手意識	母性看護が嫌い(27), 母性看護に苦手意識がある(26), 自分に向いていない(27), 実習全体に対しての悪い印象(17)	
		おもしろくない	授業の内容に興味を持てなかった(37), 妊婦には興味がない(37), 楽しさがわからない(27)	
	将来につながる	将来の仕事に関係がない領域	将来の看護師としての自分に関係ない(32), 男性は働くことができない(27)(37)	
		将来に関係ないという思い	将来に繋がるイメージが持てない(36), 将来携わらない領域に対する無意味感(42)	

4) 母性看護学実習の環境に関連したストレス状況 (表5)

母性看護学実習の環境に関連したストレス状況は【母性領域で求められる実習の特性】【指導体制】【学生間の関係性】【体調管理】が抽出された。【母性領域で求められる実習の特性】は, 中カテゴリ [分娩期の看護] [産褥期の看護] から導き出された。[分娩期の看護] は〈分娩見学への不安〉〈見学できないこと〉から, [産褥期の看護] は〈実習展開の早さ〉〈看護援助・観察に伴う時間調整の難しさ〉〈臨床と学んだことのギャップ〉〈他の対象者への過剰意識〉〈病室が個室〉から構成された。【指導体制】は中カテゴリ [スタッフとの関係] [教員との関係] [教員と指導者との関係] から導き出された。[スタッフとの関係] は〈病棟スタッフとの関わり〉〈報告に関連した不安・緊張〉〈ス

タッフからの叱責〉から, [教員との関係] は〈教員への不満〉から, [教員と指導者との関係] は〈教員と臨床指導者の指導方針のズレ〉から構成された。【学生間の関係性】は中カテゴリ [グループの関係] [学生同士の関係] から導き出された。[グループの関係] は〈グループの関係性〉から, [学生同士の関係] は〈女子学生との比較〉〈既習学生からの情報〉から構成された。【体調管理】は中カテゴリ [体調面の管理] から導き出された。[体調面の管理] は〈睡眠不足〉〈体力への不安〉から構成された。

表 5. 母性看護学実習の環境に関連したストレス状況

大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー	コード(文献番号)
母性領域で求められる実習の特性	分娩期の看護	分娩見学への不安	分娩見学への緊張感(3), 分娩見学への不安(7)(10)(35), どのように声をかけ何を行ってよいかわからず緊張と焦りがあった(18), 分娩見学では気分が悪くならないか心配(28), 自分が付き添ってよいのかという不安(35), 分娩が怖かった(6), 分娩を見たくない(28)
		見学できないこと	分娩見学ができなかった(16)
	産褥期の看護	実習展開の早さ	実習の展開の早さ(17), 退院までの展開が早い(21), 日々の状態変化(40), 短期間で退院まで見据えるのが難しい(40)
		看護援助・観察に伴う時間調整の難しさ	看護援助・観察に伴う時間調整の難しさ(18), 授乳スケジュールの調整(40), 指導のタイミングの難しさ(6)
		臨床と学んだことのギャップ	実際に学んだことと助産師がやる方法はちょっと違う(36), 演習と臨床のギャップから感じた戸惑い(39)
		他の対象者への過剰意識	受け持ち褥婦以外の対象の視線(5)
	病室が個室	病室が個室であることの入るづらさ(36)	
指導体制	スタッフとの関係	病棟スタッフとの関わり	スタッフとの関係(11), スタッフとの関係で感じる不安・緊張(18), スタッフの指導に対する不安(29), 指導者、病棟スタッフ(34)
		報告に関連した不安・緊張	スタッフが忙しく報告を聞いてもらえなかった(18), 行動調整・計画発表の時のタイミング(40)
		スタッフからの叱責	スタッフからの叱責による落胆(36)
	教員との関係	教員への不満	教員の指導に対する不満(8), 教員との関係(11), 教員の言動・教員が苦手(17)
	教員と指導者との関係	教員と臨床指導者との指導方針のズレに対する戸惑い(18), 教員と指導者との指導が異なって戸惑った(40)	
学生間の関係性	グループの関係	グループの関係性	グループ間の関係性がネガティブな感情の誘因だった(34)
	学生同士の関係	女子学生との比較	女子学生の方が適人であるという思い(36)
体調管理	体調面の管理	既習学生からの情報	男子学生は役に立たないと聞いた(28)
		睡眠不足	睡眠不足(34) 不眠によるストレス(11)
		体力への不安	体力を維持できるか不安(29)

2. 母性看護学実習における看護学生のストレス対処能力

ストレス対処能力に関する文献は2件あり、自己効力感に関するもの1件とSOCに関するもの1件だった。自己効力感に着目した岩谷(2012)の報告では、実習後に自己効力感得点が有意に高くなること、看護実践における自己効力感得点は、男性より女性、専門学校学生より大学生の得点が高くなること、入学前に職歴がない学生のほうが実習後の自己効力感得点が高いことを示した。

SOCに着目した前山ら(2017)の報告では、実習前後の得点比較において、SOC得点は実習前54.8点、実習後56.1点で、実習後に得点が上がっていた。また、前山ら(2017)は、SOCの3要素(有意味感、処理可能感、把握可能感)は、臨地実習後が実習前に比べて高いことを報告している。その中では、SOCの高低で群分けして3要素を比較しており、SOC高群が低群に比べて実習前の有意味感、把握可能感の得点が高く、SOC高群は低群に比べて実習後の3要素全てにおいて得点が高かったという結果を示した。

3. 母性看護学実習における看護学生のストレス対処行動

ストレス対処行動に関連した文献は2件だった。ストレス対処行動として抽出した内容を“”で示した。中島ら(2014)の報告では、問題中心型ストレス対処行動の中で、積極的な問題解決行動として、“事前学習して知識を補う”、“シミュレーションをする”などが示された。他者からの援助として、“先生に相談する”、“家族や友達に話し共感を得る”などが示された。情動中心型対処行動の中では、諦めの行動として、“看護援助の時間調整の難しさに対しひたすら待つ”、“一日だけだし、我慢する”が示された。逃避の行動として、“気にしない”が示された。

尾崎ら(2010)の報告では、問題中心型ストレス対処行動の中で、積極的な問題解決行動として、“興味がわくようにテキストなどで学習する”、“最大限の成果を上げるために一生懸命やる”などが示された。他者からの援助として、“指導者と教員の協力”、“情報をとるために女子学生とコミュニケーションをとる”などが示された。情動中心型対処行動の中では、

諦めの行動として、“看護師になるために通る道だから我慢する”が示された。

4. 看護学生のストレス軽減につながった母性看護学に関する学習環境要因

看護学生のストレス軽減につながった学習環境要因について示されていた文献は7件だった。その中で、ストレス軽減につながった学習環境要因について抽出した内容を“ ”で示した。このうち、講義に関するストレス軽減要因は示されていない。演習におけるストレス軽減要因として、“自分の足りなかった部分を見出し、実習のイメージが湧いて不安もあるが楽しみに変わり、男子学生ということから不安があったが演習によって不安が消えた”（太田ら、2013），“演習によって母性実習のイメージが湧き、不安はあるが楽しみになった”（秦ら、2014），“事前演習で手順や方法を行っていたことで、落ち着いて看護実践ができた”（工藤ら、2019）などが示されていた。実習では、“実習により母性看護実践に対する自己効力感が高められた”（岩谷、2012），“知識と結びついた経験や実習での感動が苦手意識を軽減した”（山口、2013），“分娩見学の経験”、“対象者への保健指導の実施が苦手意識の減少に役立った”（中島ら、2014），“母性看護学実習を通して自分の意欲を高めた”（西川ら、2019）などが示されていた。

考察

1. ストレス状況への実習指導

母性看護の知識に関連したストレス状況では、母性看護学実習特有のストレス状況として、母性看護の難しさ、看護過程への不安が示されていた。難しさの背景には、対象者の入院期間が短く、短時間で受け持ち対象者の状況が変化するという母性看護学の特性があり、スピーディーな看護援助の展開が求められているため、学生が看護援助を実施するためには知識の事前準備が非常に重要となってくる（工藤ら、2018）。さらに、母性看護学実習での看護の対象者は健康な産褥婦であり、看護診断ではウェルネス型で捉えていくため、学生の難しさにつながっていた（中島ら、2014）。実習直前に、産褥期の生理的変化や看護の要点について復習する機会を設け、自信を持って実習に

臨めるような教育方法の工夫が必要と考える。

母性看護の技術に関連したストレス状況では、母親への看護技術や関わり、新生児への看護技術、新生児との関わりが抽出された。この背景には都竹ら（2010）の報告にあるように、生育歴において妊婦や乳児に接する機会はほとんどなく、母性意識が育ちにくい環境になってきていることが影響していると考えられる。母性意識を養い、経験の少なさを補うためには、実習前に模擬患者を対象とした学内演習を行い、学生が自分に不足している知識・技術を明確にし、対象と良好な関係をつくるための態度やコミュニケーションについて考え、それを自己の課題として実習に臨むこと（勝田ら、2013）ができるよう、演習を充実させることが看護学生のストレス軽減の一助となると考える。

母性看護学実習の受け止めに関連したストレス状況は、男子学生を対象とした研究成果がみられた。その実態として、男子学生という理由で受け持ちを拒否されること（高橋、2009）、学生自身の母性看護への意識や困難感があること（尾崎ら、2010）が示されていた。男子学生が直接観察することが難しい生殖器への観察へのストレスには、DVDやシミュレーターを活用しイメージ化につなげ、どのような声かけを行えば対象の状態が理解できるのか具体的に指導する事で、困難感や不安を解消できる可能性がある（原ら、2019）と考える。また、受け持ちの承諾が得られなかった場合でも、その男子学生自身が拒否されたわけではないという事実を伝えることも重要である。また、実習指導に関わるスタッフがケアと一緒に実施し説明してくれることにより男子学生の不安が軽減し、充実感を得ていたという報告から（和田ら、2017）、学生が対象者と関わる上で困難と感じている観察には教員や指導者が同行し、一緒に実施することも助けになると考える。他方、出産や育児経験がある女子学生は対象者と自己経験を比較して実習困難感を感じていた。それに対し、自分の心情や経験を重ねるのではなく、共感的理解をしながらケアしていけるような支援が必要（北出ら、2019）と考える。

母性看護学実習の環境に関連したストレス状況は、母性看護学実習の特性を示すものであった。中でも、

分娩期の看護における分娩見学では、どのように声をかけ何を行ってよいかわからず緊張と焦りがあった(中島ら, 2014), 分娩見学が怖かった(川由ら, 2010)など、学生の不安や戸惑いといったネガティブな状況がみられた。反対に、分娩見学は学生の実習満足感につながる(和田ら, 2017), 母性看護の苦手意識の減少に役立ったこと(秦ら, 2014), 母性観を肯定的に捉えてそれが母性看護学への興味へとつながる(浅野ら, 2011)といった報告もみられた。本研究の結果で得られたように、分娩見学は、困難感、恐怖心を抱く看護学生もいる。教員は学生の個別性やレディネスに応じた配慮をする必要がある。産褥期では、実習展開の早さや、援助・観察に伴う時間調整の難しさが示されていた。これに対しても、教員や指導者が学生の個々の状況に合わせて指導していくことが重要と考える。

2. ストレス対処能力およびストレス対処行動への実習指導

ストレス対処能力は、SOCの側面から研究報告がされていた。その結果、SOC得点の実習前後比較において実習後に得点が上昇しており、実習によってストレス対処能力が向上する可能性が示唆されていた(前山ら, 2017)。SOCは、ストレス対処力として、外部からの刺激に対してそれをストレスorかどうか評価し、ストレスorである場合には資源を動員するなどして処理をするストレス対処機能である(山崎ら, 2017)。そのため、SOCが高いことはストレス対処に有効である。前山ら(2017)の報告では、SOCを高め、ストレス対処能力を育てるツールとして、ルーブリック評価が有効であった。このことから、実習でストレス対処能力を向上させるためには、学生の能力を客観的に評価し、具体的な達成目標を持たせるような取り組みが求められる。

母性看護学実習における看護学生のストレス対処行動の特徴としては不安な気持ちを対処するために事前学習を取り入れ、自分自身の力で困難を解決する積極的問題解決の方略をとること、教員に相談し他者からの援助を求めるといった問題中心型対処行動をとることが示されていた。このような適切な対処行動がとれることは、メンタルヘルスを良好に保つために重要で

ある。金子ら(2015)の報告によると、臨地実習におけるストレス対処能力は、ストレス対処行動と関連があり、実習中に発想の転換、解決のための相談、積極的問題解決といった問題中心型ストレス対処行動をとる学生は、ストレス対処能力が高く、回避と抑制といった情動中心型ストレス対処行動をとる学生は、ストレス対処能力が低いことが報告されている。このことから、問題中心型の適切なストレス対処の選択ができることによって、ストレス対処能力を向上させる可能性があると考えた。従って、教員は学生がストレスに対し主体的に積極的問題解決行動がとれるように促していくことが望ましい。そのためには、学生が自身のストレス対処行動を実習開始前に把握できるような機会を作り、実習の振り返りの際に教員と共に対処行動についてリフレクションを行うことが有効ではないかと考える。

3. ストレス対処に繋がる実習指導

看護学生のストレス軽減につながった母性看護実習に関する学習環境要因では、演習によって母性実習のイメージが湧き、不安はあるが楽しみになったこと、実習における分娩見学の経験、対象者への保健指導の実施が苦手意識の減少につながるなどが示されていた。従って、演習や実習そのものが看護学生のストレス軽減に繋がることが考えられた。ストレスは、同じストレス刺激でもその程度、強さの差、さらには受け手の生体条件の差によって、わるいストレスにもよいストレスにもなりうるものである(セリエ, 1988)。臨地実習はストレスであるが、知識と結びついた経験や実習での感動が苦手意識を軽減する(山口, 2013)という報告がある。本研究の結果から、演習での知識や技術確認が実習への不安解消や自信に繋がること、実習の経験が意欲を高め、苦手意識を軽減させることが明らかになった。従って、教員は学生がこれまで講義、演習など学内で学んできたことを実習の場で経験した時に、実践できた看護行為について知識と経験を結びつけ意味づけができるようにリフレクションを行うことが望ましいと考える。

演習では、事前演習で手順や方法を行っていたことで、落ち着いて看護実践ができることに繋がり、自分の足りなかった部分を見出して不安を軽減させていた

(工藤ら, 2018). 教員は, 実習前に母性看護学の特徴をイメージし, 実践に活かせるようにリアリティーを感じられるような演習を展開することが必要と考える。

結論

母性看護学実習特有の看護学生のストレス状況として, 母性看護の難しさ, 看護過程への不安, 母親・新生児の看護, 男子学生特有の困難感, 出産・育児経験の影響, 母性看護への興味関心の低さが明らかになった。実習中のストレス対処行動は, 問題中心型, 情動中心型の対処行動をとる傾向が示され, 問題中心型の適切なストレス対処の選択ができることによって, ストレス対処能力が向上する可能性がある。教員や指導者は, 学生個人の特性やレディネスを把握するだけでなく, 実習前に母性看護学に対する捉え方を理解した上で母性看護学の特徴をイメージできるような演習をすること, 実習中は知識と経験を結びつけられるような形でリフレクションを行うことが望まれる。

(本研究は, 2020年度長野県看護大学大学院に提出した修士論文の一部を加筆修正したものである。)

文献

天野道代(2009). 看護学生が褥婦への電話訪問を通じて学習したこと. 日本看護学会論文集, 母性看護, 40, 102-104.

荒川千秋, 佐藤亜月子, 佐久間夕美子, 他1名(2010). 看護大学生における実習のストレスに関する研究. 目白大学 健康科学研究, (3), 61-66.

浅野賀子, 馬場真紀, 尾端博子, 他4名(2011). 母性看護学実習で学生が興味や達成感を感じた出来事や場面の実際. 中国四国地区国立病院付属看護学校紀要, 7, 78-83.

藤原弘子, 若井和子, 村上博美, 他1名(2017). 母性看護学実習における教育方法の一考察. 看護・保健科学研究誌17(1), 119-123.

ハンス・セリエ(1988). 杉靖三郎, 田多井吉之介, 藤井尚治(他1名), 現代社会とストレス(原書改訂版). 法政大学出版局, 東京.

橋本美里(2013). 母性看護学実習における実習体験の

達成度調査. 足柄短期大学紀要, (33), 77-81.

原理沙, 奥原香織, 横山芳子(2019). 男子看護学生の母性看護学実習に対する思いと学びの調査. 松本短期大学紀要, (28), 13-24.

秦久美子, 若井和子(2014). 母性看護学への苦手意識—母性看護学実習による減少効果—. インターナショナルNursing care research, 13(3), 175-181.

服部由佳, 小幡光子, 磯和勅子(2016). 周手術期実習中における看護学生のストレス反応と情動知能の関連. 日本看護研究学会雑誌, 39(5), 75-83.

伊東美智子, 島内敦子(2018). 母性看護学実習における学びに関する研究—分娩見学を終えた学生たちによるグループインタビュー—. 神戸常盤大学紀要, (11), 57-66.

伊藤良子, 中野雅子(2010). 分娩期実習における看護学生の体験と学び. 京都市立看護短期大学紀要, (35), 123-128.

岩谷久美子(2012). 看護学生の母性看護学実践に対する自己効力感—母性看護学実習前後の比較. 医学と生物学, (156)9, 644-649.

梶田叡一(1995). 教育評価(2), 有菱閣双書, 東京.

金子さゆり, 樫野香苗(2015). 基礎看護学実習における看護学生のストレス因子構造と対処行動. 名古屋市立大学看護学部紀要, 14, 51-59.

加藤エリ, 谷川マリ, 歸山実佳(2018). 母性看護学実習につなげる講義・演習の工夫について. 神奈川県立よこはま看護専門学校紀要, 10, 28-31.

勝田真由美, 工藤里香, 西村明子, 他1名(2013). 模擬患者を対象にした母性看護技術演習の学習効果. 兵庫医療大学紀要, 1(1), 57-68.

川由京子, 佐々木弘美, 佐々木智恵子, 他5名(2010). 母性看護学実習前後の看護学生の苦手意識の変化. 島根母性衛生学会誌, 14, 71-76.

北出千春, 大木笑子, 中村乃利子, 他1名(2015). 母性看護学実習におけるドライテクニクの学習経験より検討した実習指導. 日本看護学会論文集看護教育, 45, 118-121.

北出千春, 梶谷薫(2019). 母性看護学実習における出産育児経験のある看護学生の学びの構造と学習支援. 日本看護学教育学会誌, 28(2), 11-23.

- 北林ちなみ, 中山美香(2011), 母性看護学実習における学びの評価とそれに関連する因子. 飯田女子短期大学紀要, 28, 59-70.
- 工藤真理子, 平田礼子, 風間みえ(2019). 母性看護学実習に向けた学習支援に対する学生の認識. 日本医療科学大学研究紀要, 11, 163-176.
- 緋瀬祐子, 中田久恵, 大槻優子(2017), 男子学生の母性看護学実習開始時における心理状態に関する研究. 日本医学看護学教育学会誌, 26(1), 22-26.
- 厚生労働省(2011). みんなのメンタルヘルス総合ガイド. https://www.mhlw.go.jp/kokoro/first/first02_1.html(2020.11.24).
- 前山直美, 原田美枝子, 菊池美保子(2017). 知識・技術・態度を総合的にアセスメントする評価方法導入の妥当性-母性看護学実習前と実習後のSense of Coherenceとの関連. 神奈川歯科大学短期大学部紀要, 4, 33-37.
- 文部科学省(2017). 臨地実習指導体制と新卒者の支援. http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/018/gaiyou/020401c.htm(2019.8.15).
- 中島久美子, 早川有子(2014). 母性看護学実習における学生ストレスと対処行動から捉えた実習指導の課題. 群馬バース大学紀要, 17, 17-27.
- 賛育子, 三宅絢花(2014). 母性看護学実習に対する女子学生の实習前のイメージ. 実習中感じたこと, 実習後の思い-テキストマイニングによる分析-, ヒューマンケア研究学会誌, 5(2), 21-28.
- 賛育子, 小幡孝志, 室津史子(2014). 母性看護学実習における男子学生の思い. ヒューマンケア研究学会誌, 5(2), 29-36.
- 賛育子(2018). 母性看護学実習において学生が抱く実習前の不安, 実習中の困難感, 実習後の成長感と事前学習課題の理解度および有効性から考察した効果的な学習支援. 岐阜聖徳学園大学看護学研究誌, 3, 1-10.
- 二川香里, 松井弘美, 長谷川ともみ(2015). 男子学生の視座から捉えた母性看護学実習における学習過程. 母性衛生, 55(4), 659-667.
- 西川明美, 中島初江(2019). 母性看護学実習に有効な学内演習の検討. 日本母子看護学会誌, 12(2), 55-63.
- 日本看護系大学協議会(2018). 看護系大学学士課程の臨地実習とその基準作成に関する調査研究報告書. <https://doi.org/10.32283/rep.0ca042ea>(2019.8.15).
- 野田貴代, 都竹友季子, 出口睦雄(2011), 看護学生の母性看護学実習に対する意識調査—学生と教員の思い方のズレ—(第6報). 愛知きわみ看護短期大学紀要, 7, 29-37.
- 内野恵子, 島田涼子(2015). 本邦における新人看護師の離職についての文献研究. 心身健康科学, 11(1), 18-23.
- 大谷美香, 出石敦子, 藤村礼美, 他4名(2015). 看護専門学校臨地実習における看護学生のストレス. 愛知県立総合看護専門学校紀要, 10, 20-30.
- 大槻優子(2015). 母性看護. 看護と情報, 22, 3-8.
- 太田愛, 大澤豊子, 森田桂子(2013). 母性看護学における臨地実習前学内演習の効果について. 帝京平成看護短期大学紀要, 23, 7-11.
- 大野理恵, 長嶋美佐子(2018). 男子学生が母性看護学実習前から実習終了まで抱く困難感. 日本看護学会論文集, 看護教育, 48, 79-82.
- 尾崎洋子, 木川富枝, 花田持子, 他3名(2010), 母性看護学実習で男子学生が感じる困難. 中国四国地区国立病院附属看護学校紀要, 6, 27-39.
- 佐藤愛, 高橋由美子, 寄本飛鳥(2018). 母性看護学実習での男子学生のモチベーションに影響する要因. 青森県立保健大学雑誌, 18, 15-22.
- 重岡秀子, 池本かづみ, 石崎文子, 他(2016). 成人看護学実習前・後における看護学生が感じるストレス感情と不安状態の実態. 健康科学と人間形成, 2016, 2(1), 17-26.
- 志村智絵, 平田礼子, 斉藤益子(2018). 母性看護学に関する興味関心の変容-実習前後の変化から-. 帝京科学大学紀要, 14, 281-285.
- 高橋マツ子(2009). 母性看護学実習における男子学生の不安と変容. 足柄短期大学研究紀要, 29(1), 79-82.
- 谷川マリ, 加藤エリ, 歸山実佳(2019). 母性看護学実習における学生自身の意欲につながる関わりについて. 神奈川県立よこはま看護専門学校紀要, 11, 24-

27.

東京大学保健センター(2020). 心理的ストレスと対処法.
<http://www.hc.u-tokyo.ac.jp/covid-19/stress/>
(閲覧日:2020.12.23)

都竹友季子, 野田貴代, 出口睦雄(2010). 看護学生の母性看護学実習に対する意識調査—母性看護学実習に対する男女の意識の違いと母性意識の高まる指導的関わりについて—. 愛知きわみ看護短期大学紀要, 6, 7-13.

都竹友季子, 出口睦雄, 野田貴代(2016). 看護学生の母性看護学実習に対する意識調査—母性看護学実習に対するイメージと看護技術を実践する意欲との関係—. 愛知きわみ短期大学紀要, 12, 11-18.

和田佳子, 藤井智恵美, 岸田泰子(2017). 母性看護学実習における看護学生の自己評価に影響する実習体験に関する質的検討. 共立女子大学看護学雑誌, 4, 1-8.

山口静江(2013). 母性看護学に対する苦手意識の形成要因と軽減要因. 日本看護学会論文集, 母性看護, 43, 84-87.

山崎喜比古, 戸ヶ里泰典(2017). 健康生成力SOCと人生・社会. 有信堂, 東京.

【Material】

Literature review on stress among nursing students during maternal newborn nursing practice in Japan

Yoko HAYASHI ¹⁾, Emi YOSHIOKA ¹⁾, Sayuri KANEKO ¹⁾

¹⁾Nagano College of Nursing

【Abstract】 The purpose of this literature review is to develop guidelines for an efficacious clinical maternal newborn nursing practice; by analyzing students' stressors and coping strategies. The literature reviewed were searched from In the bibliographic web database of the Japan Medical Abstracts Society, and were studied from the perspective of nursing students' stressor, their stress coping ability, their coping behaviors and learning environment. Stressors that are particular to the area of maternal newborn nursing care were found to be the following: Clinical complexity within maternity care, anxiety about the nursing process, maternal and newborn nursing, the effects of childbirth and childcare experience, less interest in maternal nursing, Challenges particular to male students were also documented within literature. Students demonstrated a tendency to use two different coping strategies: problem-focused coping, or emotion-focused coping in response to these stresses. The review suggested that students' stress coping ability in stress management improves by using proper coping strategies. Faculty and instructors are not only expected to understand each students' personality and readiness, but also to understand students' perception towards maternal newborn nursing prior to clinical rotation. It is desirable to create an environment prior to clinical rotation that students will have an accurate image and expectation of maternity and newborn nursing so that students can positively participate and engage in the experience.

【Keywords】 Nursing students, Maternal newborn nursing practice, Stressors, Stress coping ability, Coping behavior

林陽子
〒399-4117
長野県駒ヶ根市赤穂1694番地
長野県看護大学
TEL:0265-81-5183 FAX:0265-81-5183
E-mail:yokohayashi@nagano-nurs.ac.jp
Yoko HAYASHI
Nagano Prefecture
Nagano College of Nursing
1694Akaho,Komagane,Nagano,399-4117JAPAN
TEL:+81-265-81-5183 Fax:+81-265-81-5183
E-mail:yokohayashi@nagano-nurs.ac.jp